

福島県立博物館 中期目標（第3期 2019～2023年度）

1. 重点目標

2019年度の計画と実績・自己評価（2020年3月末現在）

使命	活動方針	重点目標	上段：2019年度の計画
			下段：実績・自己評価
I ふくしま発見博物館	1 地域の文化遺産の収集と継承	① 検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	既存公開データベースの運用上の課題や利用状況を把握し、テーマ型データベースの設計を検討する。
			テーマ型データベースを導入している他館の情報を収集した。
		② 図書利用環境の整備	図書室における図書配架の現状把握と新たな計画を策定する。
	図書室2Fにおける物品配架の現状をほぼ把握し、2Fの整備利用計画について構想した。		
	③ 資料の安全な保存	情報共有の場となる会議を設けて、課題を抽出し、リスクアセスメント計画を作成する。	
		空気環境調査の結果について館内で共有し、適切な収蔵庫環境を構築するために空調機器・設備の現状を把握し、機器更新及び改修の方向性について検討した。	
	2 最新の研究による新たな資料価値の発見	④ 多様な連携による新たな研究活動	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。
			民俗分野では磐梯町と取り交わした協約書をもとに共同での調査研究事業を進めた。 学芸員個人としても国立歴史民俗博物館の共同研究や明治大学の科研費による研究に参画し、連携した研究を行った。震災遺産に関しては、京都で行われたICOM（国際博物館会議）や専門誌で、これまでの成果を公表した。
	3 来るたびに発見がある展示・講座	⑤ 何度でも足を運びたいくなる展示づくり	来館者を常設展示室へ誘導するため、企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を試行する。
			企画展や行事等と連動した常設展示室のポイント展・テーマ展を計9回実施した。特に特集展「震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー」と連動したテーマ展「山口弥一郎のみた東北」では、アンケートで好評をいただいた。
⑥ 博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催		各分野、企画展担当者から挙げられた講座等について、ある程度の統一性や連続性が感じられるよう適正に日程を調整する。	
		部門展示やテーマ展と連動して講演会・講座を開催したことで、展示と行事の統一性、連続性を生み出すことができた。 また今年度の成果を踏まえ、次年度行事の名称や内容をさらに利用者目線で調整し、統一性や連続性がより創出されるよう工夫を凝らした。	
⑦ 新しい展示ストーリーの検討		新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。 来館者モニターの試行として、利用指導者研修会の活用を試みたり、会津若松市国際交流協会・語学ボランティアによる展示観覧・意見交換を実施した。	

II 出 会 い ふ れ あ い 博 物 館	4 楽 し め て 出 会 い の あ る 場 の 創 出	⑧ 展示室以外の空間の有効活用	無料空間のあり方、活用方法を検討し、エントランスホール、相談コーナー、レストランの新たな活用を試行する。
			連携交流班において無料空間のあり方や活用方法を検討、オープンミュージアムビジョンを作成した。 試行として体験学習室を主な実践場所と想定し、館内協議・外部ヒアリングも参考に活用案をまとめ、福島県立会津工業高等学校建築インテリア科と連携した木製玩具の製作、当館収蔵資料を活用した撮影スポット設置等として実現した。 エントランスホールは、これまで体験学習室のみで実施してきたこともミニミニ博物館の会場の一部として活用、企画展にあわせてレプリカを用いた撮影スポットの設置など、新たな活用を試みた。 レストランでは、企画展と連動した作品展示等を行った。
		⑨ 多様な利用者層に対応したプログラムの実施	障がい者に寄り添った学習機会を促進する。
			オープンミュージアムビジョンを元に、計画的に支援学校や社会福祉法人、病院等の視察を実施した。 視覚障害を持っている方に、当館の展示やイベントに参加していただいたり、当館への意見を頂く機会を得た。 それらに基づき、支援学校や社会福祉法人等の団体の利用プログラムを作成、実施した。
	5 利 用 者 と の 協 働	⑩ ボランティアとの協働	ボランティアを導入している他館の情報を収集する。
			インターネットに公表されている他館の情報収集をはじめた。 またライフミュージアムネットワーク2019への参画により、同事業の県外リサーチで大阪市立自然史博物館での利用者による自主的な活動、満蒙開拓平和記念館での高校生によるボランティア活動について知見を得た。
		⑪ 利用者の自主的な文化活動支援	館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。
			利用者によるサークル活動が活発な他館（十日町市立博物館等）への当館友の会旅行をサポートし、利用者同士の交流の機会とすると共に当館友の会活動の将来の指針を得た。 また、防災食などをテーマにする新しいサークルの開設について当館友の会と相談をはじめた。
	⑫ 協働による新たな事業運営の枠組みの構築	協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、館内外を対象に意見交換会を開催する。	
		利用者との協働による事業運営について連携交流班内で協議し、体験学習室を試行の場とする事業案について検討した。 他団体との協働や連携による事業運営の枠組みを検討、共催・後援事業の規則を見直し、改定案を作成した。	
	6 博 物 館 情 報 の 公 開 と 発 信	⑬ 情報の効果的な周知	広報戦略の立案に基づき、WebおよびSNS運用を充実させ、あわせて印刷物の内容を見直す。
			TwitterやFaceBookの更新頻度を上げたことに加え、シリーズ化するなど投稿内容の工夫も凝らした結果、大きな反響があり、1,000人を超えるフォロワーも獲得した。 また既存の広報誌の紙面や発行回数を見直し、より見やすく、幅広い層に情報が届きやすい紙面を検討した。

II 出 会 い ふ れ あ い 博 物 館	6 博 物 館 情 報 の 公 開 と 発 信	⑭ 親しみやすさと認知度の向上	<p>掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。 博物館の「人」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。</p> <p>各掲示物に共通した博物館の連絡先等の情報について、考え方の検討をはじめた。 さらに共有を行ったうえで「共通情報部分の統一感あるデザイン」の検討を進めていく。 『博物館だより』の新任者紹介や、テレビ取材、SNS、新たに始まったラジオ番組などで当館に勤務する学芸員にスポットを当て、当館の親しみやすさの向上に努めた。</p>
	7 地 域 連 携 と ネ ッ ト ワ ー ク の 拠 点	⑮ 県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	<p>既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。</p> <p>企画展「興福寺と会津」にあわせ、「会津の文化×地域連携プロジェクト」を基盤に会津の仏教文化を観光資源として活かす取り組みを会津若松市、会津若松観光ビューローと行った。 福島県博物館連絡協議会の事業の活性化を試み、新たに資料取り扱い研修を実施した。 未就学児支援事業「博物館でも読み聞かせ」においてあらたに会津大学短期大学部との連携に取り組んだ。 当館無料空間で開始した福島県内文化施設のPR展示では、当館を拠点とした発信を行い、新たな連携を試行した。</p>
III 明 日 に 向 か う 博 物 館	8 震 災 遺 産 の 保 全 ・ 活 用 に よ る 東 日 本 大 震 災 の 共 有 と 継 承	⑯ 震災遺産の展示公開と利活用	<p>新分野確立に向けて館内で合意形成する。常設展における震災遺産の利活用の考え方について館内で整理する。</p> <p>通史の中に東日本大震災を位置づけるための共通理解を図り、震災遺産の常設展示での利活用を検討するため、エネルギー開発や災害史、民俗学的観点から毎月館内研修を開催した。</p>
	9 新 た な 博 物 館 の 役 割 ・ 機 能 の 創 出	⑰ 地域社会の現状への貢献	<p>子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。</p> <p>当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会主催のライフミュージアムネットワーク2019に参画する中で下記の実績を得た。 ソーシャルインクルージョンをテーマとしたオープンディスカッションを開催。障害のある方にとってミュージアムが利活用しやすい場であるための議論を行った。 当館を発着とし奥会津地方のミュージアムをめぐるスタディツアーに視覚障害のある方にご参加いただいたことにより、視覚障害のある方によるミュージアムの利活用の課題を検証し、次年度のプログラム開発につなげる素地をつくった。</p>
	10 管 理 運 営	⑱ 施設の安全で快適な環境整備	<p>避難訓練にあわせたバックヤードでの安否確認の実施と、図書室からの避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。</p> <p>6月18日に、会津若松消防署の協力を得て、AED操作研修と自衛避難訓練を行うとともに、避難経路の安全確認を行った。 また、自動火災報知器設備を更新するなど、設備の老朽化対策に努めた。</p>

## 2. 数値目標（指標）

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。

(2019実績 = 2020年3月末現在)

区分	指標	年間目標	2019実績	備考
館内事業利用者数（展示・行事）		90,000	120,376	(内訳) 展示105,439、行事14,937

区分	指標	年間目標	2019実績	備考
資料情報の公開	件数	5,000	2,054	
研究成果の公表	件数	30	32	(内訳) 印刷物21件、学会発表等11件
行事の実施	回数	100	130	
ホームページ	アクセス件数	430,000	391,990	
館外事業利用者数 (学校・公民館事業等)		1,800	1,823	(内訳) ゲストティーチャー事業339、講師派遣事業1,484
館外事業利用者数 (実行委員会・協議会事業等)		500	547	(内訳) LMN参加者数265、磐梯山ジオパーク・ふくしまサイエンス…参加者数282

(参考) 第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します

区分	指標	年間目標	2019実績	備考
年間パスポート	販売数		988	
	利用者数		4,630	(内訳) 常設展1,704、企画展2,926
Facebook	投稿件数		227	投稿数+シェア数
	フォロワー数		1,135	
	エンゲージメント数		28,256	以下の4項目を合計した数値 ・投稿クリック数(リンクのクリックや画像の表示などページを閲覧した数) ・リアクション数(いいね!等) ・コメント数 ・シェア数
twitter	投稿件数		309	ツイート数+リツイート数
	フォロワー数		1,167	
	ツイートインプレッション数		3,103,652	ツイートが閲覧された数
館内事業利用者数(特別プログラム利用者)			4,930	(内訳) 学校・公民館・その他展示個別解説等4,897、職場体験12、博物館実習11、大学の課外授業及びゼミ対応10

### 2020年3月末までの進捗状況について

「1. 重点目標」の実績について、今年度は5年後を目指した初年度に当たり、新たな取り組みの出発として、今後の本格的な展開のための準備や試行となる内容が全体的に多くなった。計画通りに進められなかった部分については修正をして、次年度以後の本格的な実施につなげていきたい。

「2. 数値目標」について、「館内事業利用者数」は、とくに夏の企画展の入場者が多かったため、目標値を大幅に超える人数となった。その他の数値目標については、おおむね達成できたが、達成できなかったものが2項目あった。「資料情報の公開」について、目標値の件数に達しなかった理由として、データ整備が比較的簡単な大規模コレクションの公開が前年度までに進み、今年度からは小規模コレクションに移行したためデータ整備に時間を要したと考えられる。「ホームページ」については、前年度までの平均値から算出したアクセス件数の目標値まで達しなかった理由として、当館ホームページを2019年4月26日にリニューアルして公開を開始したことに伴い、それ以後の件数しかカウントできなかったためと考えられる。